

東雲中学校校長室通信

文責 校長 渡邊

和彦

平成二十九年六月一日発行第七号

避難訓練を行いました。



五月三十日幼小中合同の地震、津波を想定した避難訓練を行いました。1500メートル以上の道のりを駆け足、早足で一生涯懸命避難しました。三年生は幼稚園児の手を引いて励ましながら逃げてくれました。胸が熱くなりました。ライフジャケットを着けて逃げますからかなり暑かった。だけど生徒た

ちは愚痴ることなく頑張りました。元佐伯市消防本部消防長、現在、佐伯市防災危機管理課の防災危機管理専門員「加藤新吾」さんが、避難訓練の様子をしつかりと見て下さり適切なアドバイスを下されました。駐在所の吉松さんも、公民館の曾根さん、藤田さん、大浜さんも駆けつけて下さりました。大分県警察の若い警察官の方も数名、道路の横断などを支援してくれました。多くの方が、見守り協力して下さいました。本当にうれしかった。東雲の子どもたちは地域の方に愛されています。だから、中学生は地域のお年寄りを始め、体の不自由な方や地域の方々が、みんな安全に避難できるように、自分達にできることに気づき、考え、行動しなくてはなりません。勇気ある東雲の生徒なら、必ずできます。

中間テストが始まります

あと、十日もすれば中間テストです。一年生にとつては初めての定期テストとなります。準備を始めましょう。

- ①何がわかってないのか探しましょう
- ②わかっていないところをできるようにするための方法を考えましょう(例 何度も書く、暗記カードを作る)
- ③先生を上手に利用しましょう(授業中に聞いていたつもりでも、記憶にないこともあるでしょう。遠慮せずに先生を訪ねていき、「もう一度教えて下さい」と言います。いやがる先生はいません。事実、私は嬉しかった)
- ④しつかり定着したのか自分で自分を試してみましよう。(問題集、家の人に問題を出してもらおう、友だちと確かめ合う)

何でも真剣だった

私は決して、立派な東雲中学生ではありませんでした。威張ることはありません。恥ずべき事です。証人もたくさんいます。同窓会で「罪滅ぼしのつもりで頑張れ」といつてくれた友もいます。だけど、私は何でも一生懸命、全力で取り組みました。ギターにかぶれました。恋もしました。自転車の改造もしました。野球も下手なりに最後までやりました。そして、中三の夏休み。落ちるところまで落ちた成績を伸ば

すため、ほぼ終日、父親に監禁されました。昼間つから勉強部屋の雨戸を締め切つて外の音を断ち切り、勉強させられました。集中力が欠けると容赦なく、物差しで手の甲を叩かれました。アチーブテストがあつたお陰で、中一の所から理解できていなかったことを復習できました。(私が中三だった、38年前、初めてアチーブが東雲中に導入されたのです。それを導入した先生の話は、またいつか)

努力は実を結びました。そして気づいたこと。私は人の倍頑張らなければ、人と同じ力を付けることができない。

残念な事に気づいたわけですが、その時気づいて良かったです。

フナムシはどこに行つたのか



「海の上浦」で育つた皆さんは、当然知っていると知っています。僕が子ども頃の頃のフナムシは海岸にウジャウジャいたのです。テトラポットにも数え切れないくらい。しかも集団行動が得意で、波が来ると一斉に同じ方向に逃げていました。釣り道具も売っていた根木の本屋さんで、竹の釣竿と鉛や釣り針やテグスを買い、浜でゴカイを掘りまして、ホゴやキスを釣るのが僕らの最高のレジャーだった。満ち潮などでゴカイが掘れなければ木村の魚屋さんで、少し黒ずんだエビを分けてもらつた。それも手に入らなければ、このフナムシを捕獲して釣る。ギザメでも釣れば、ギザメを切り刻んで餌にしてホゴを狙う。懐かしくて仕方ない...

ところで、最近、お世話になつたフナムシが少なくなつて思うのですが、ほとんど見かけないのですが、なぜなんでしょうか?どこに行つたのでしょうか?知つてる方がいらつしやたら、教えて下さい。

